

2025 年 8 月

「社会の中におおきな応援団をつくる」活動に取り組みます

～「困っています」と「私にできることでよければ」を繋ぐ

一般社団法人 I&Others を設立しました～

一般社団法人 I&Others

1 設立趣旨

私たち誰もが、長い人生の中で、生きづらさを感じたり、大きな困難に遭遇したりします。そんな時に、「困っています」と声を上げることができる社会、その声に気づいて「私にできることでよければ」と手を差し伸べてくれる人がたくさんいる社会を創りたいと思います。

そこで、今般、「困っています」と「私にできることでよければ」を繋ぐ一般社団法人 I&Others を立ち上げ、社会の中に「おおきな応援団」をつくり、生きづらさを抱えた人たちの課題解決に「みんな」で取り組むことのできる社会をつくる活動に取り組むことといたしました。

2 背景

私たちの社会には生きづらさを抱えて暮らしている人がたくさんいます。困難を抱えた女性、厳しい家庭環境にある子ども、親を頼ることが難しい若者、ひとり親、独り暮らしの高齢者など、多くの人が支援を必要としています。また、大きな自然災害があれば、被災者は厳しい状況に置かれます。これらは、けっして特別な人ではなく、私たち誰もが、様々な局面で支援を必要とするのです。

こうした人々の支援のために多くの活動団体が奔走しています。いずれの活動団体も熱意をもって活動していますが、多くは財政基盤がぜい弱で、人材や必要な物資も不足するなど、支援団体も外部からの支援を必要としています。しかし、個々の活動団体は目の前の活動で手一杯で、こうした状況を社会に広く訴え、応援団を見つけることは難しい状況です。

一方で、多くの企業・団体等は大きな社会資源を持っていて、それを活用して社会課題の解決に貢献したいと思っています。しかし、自分たちの持つ資源をどこにどのような形で届けるのが効果的か、また、社員や株主等の理解をどう得るかはむずかしい課題です。

こうした状況に気づき、若年女性の支援を行う一般社団法人若草プロジェクト（設立：2016年 代表呼びかけ人：瀬戸内寂聴、村木厚子）では、同じように若年女性支援に取り組む全国の200以上の活動団体に対し、企業からの応援を届けてきました。そして、この活動をもっと広く生きづらさを抱えた多くの人への支援に広げられないかと考えました。また、企業等からも、そうしたご要望を多くいただきました。

そこで、新たな一般社団法人I&Othersを立ち上げ、生きづらさを抱えている人たちの支援の現場とそれを応援したい企業・団体等とを繋ぐ活動を始めることとしました。若草プロジェクトで行ってきた若年女性支援の現場と企業を繋ぐ活動もこの法人で継続して実施します。

そして、まずは新たな支援分野として、特に制度・政策の整備が遅れている

若者（それにつながる子ども分野を含む）支援に取り組みます。

3 事業内容

（１） 「困っています」を知る：社会課題の把握、見える化

様々な生きづらさを抱える人たちの課題と支援の現状を調査等により明らかにし、社会にわかりやすく提示します。支援者同士のゆるやかなネットワークの形成をお手伝いし、そことつながることで、支援の現場のニーズを明らかにします。

（２） 「私にできること」を探す：応援企業・団体の開拓

明らかになった社会課題やニーズを企業・団体等に広く伝え、応援企業・団体等の開拓を行います。また、企業・団体等が現場に役立つ応援をするための方法を企業・団体等とともに考えます。

（３） 両者を繋ぐ：支援現場と企業・団体のマッチング

応援したい企業・団体等と応援を必要とする支援の現場をマッチングします。そして、応援が有効に機能し、かつ持続するよう伴走します。

（４） 「おたがいさま」の社会を創る：応援の循環に向けた機運醸成

私たちと同様に、社会の中「おおきな応援団」をつくることを目指す中間支援団体や企業グループ、職能団体、個人等がともに集うネットワークの形成を目指し、エール（応援）が社会全体に循環するよう機運醸成に努めます。

4 役員構成

代表理事：村木厚子

理事：萩原なつ子

福田万祐子

監事：大橋君平

5 当面の活動の柱

（１）応援団立ち上げの宣言・広報

これまでに、若草プロジェクトで若年女性支援にご協力いただいていた企業、団体はもとより、趣旨に賛同してくださる企業、団体とともに「社会の中におおきな応援団をつくる活動」の開始を宣言し、応援団立ち上げの趣旨や活動内容を社会に広く知っていただけるよう広報に努めます。

（２）個別事業の推進

①ささえあいむプロジェクト（支援現場と企業等を結ぶマッチング事業）

若者・こども支援のプラットフォームを立ち上げるとともに、女性支援のプラットフォーム（TsunA が～る）についても、引き続き円滑な運営を図ります。

②人材育成プロジェクト

日本 NPO センター、国立女性教育会館と協働して、女性のライフサポートに関する研修を引き続き実施します。

③調査・研究事業

日本 NPO センターや若者支援に取り組む団体等と協力して、若者支援の現状について、調査・研究を行います。

（３）「応援の循環」に向けた機運醸成

趣旨に賛同してくださる企業・団体・学校・地域はもとより、年齢や性差を超えた多くの個人が集うネットワークを作り、それらの主体が各々の特性を生かした独自の活動を展開できる基盤（プラットフォーム）づくりに取り組みます。

その最初場として、（株）朝日エルと協働で「『応援の循環』拡大会議」を開催します。（別添）

本件お問い合わせ先

一般社団法人 I&Others

メール：info@iandothers.org

これまでに応援団への参加を表明していただいている企業（順不同）

株式会社ファーストリテイリング

日本生命保険相互会社

日本産業パートナーズ株式会社

伊藤忠商事株式会社

ハウス食品グループ

eBay Japan 合同会社 （MOVE）

コンバースジャパン株式会社

株式会社 SUMCO

株式会社朝日エル

株式会社 SociADesign

これまでに応援団への参加を表明していただいている団体等（順不同）

公益社団法人日本フィランソロピー協会

特定非営利活動法人日本 NPO センター

社会福祉法人素王会インカープ

日本福祉大学

応援団への参加方法：「わたしにできること」の例

- 参加表明
- 協賛金の提供
- 物資の提供
- 「就労の場」の提供
- 「体験機会」の提供
- 連携事業の企画・提案・共同実施
- 技術・ノウハウの提供
- 人材の提供（プロボノ等）
- 参加企業・団体等の発掘、勧誘
- 広報活動への協力
- 医療・福祉・教育関係の支援の提供 など

(参考)

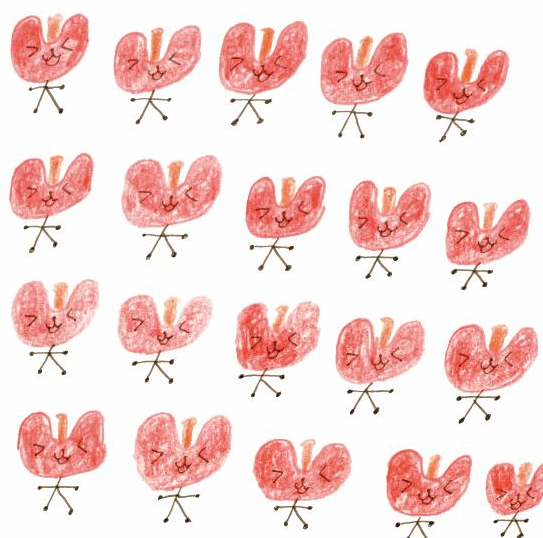
(コンセプト)

『困っています』と『私にできることでよければ』を繋ぐ」というコンセプトは、島根県にある「おたがいさま」という市民相互の助け合いの仕組みからいただきました。

(ロゴマーク)

ロゴマークのりんごちゃんは インカーブ所属のアーティスト塚本和行さんの作品です。

一般社団法人 I&Others のメンバーが共感したルターの「たとえ明日世界が滅びることを知ったとしても、 私は今日りんごの木を植える」とピッタリのこの作品に、出会い、インカーブ様、そして塚本様をお願いをしたところ、快くロゴとして使わせていただくこととなりました。



I & Others

社会の中におおきな応援団をつくる